

びとう和広 市政報告

2023年12月議会報告号

発行者：三田市議会議員
びとう 和広

田村市長！三田の課題は待ったなし！

三田市議会定例会令和5年12月議会の一般質問において、新市長の考えを確認し、自策を提案しました。一般質問は、個人質問で、質疑と答弁で40分以内です。

1 フラワータウン再生ビジョン

- (1) 田村市長の就任後の方針変更
- (2) 公共交通の見直し
- (3) 住み替え支援と子育て世帯の誘致
- (4) 学校の再編統合

2 公共施設マネジメントの見直し

- (1) 田村市長就任後の方針変更
- (2) 人口減少や構成の変化に対応した見直し
- (3) シティセールスの観点からの見直し

3 北神・三田地域の急性期医療の構築

- (1) 三田市民病院と済生会兵庫県病院との再編統合の課題
- (2) 4か月凍結の影響と働き方改革への対応
- (3) 現市民病院と済生会病院跡地の活用

(問)：議員質問

(答)：市長や
市当局の答弁

(び)：びどうの考え

黄色い網掛け：
質問の中項目

びどう：1. フラワータウン再生ビジョンについて

(問) 人口減少対策は待ったなし。フラワータウンは40年を経過し、2022年4月策定の再生ビジョンは、2024年4月から実行計画に入る。見直しと方針変更を明確に提示し、ビジョンの早期実現と、市全体の活性化に向けた展開が急務。

(1) 田村市長の就任後の方針変更

(答) 前市政の事業だが、否定はしない。フラワータウン内には、県の土地や施設が存在し、住民生活の影響が大きい。市が主導的に、将来のまちの姿やイメージを打ち出し、県と共有することで、フラワータウンが抱える「人口減少・高齢化の進展」や「都市施設、建築物の老朽化」などの課題解決に向けた取り組みが進んでいく、と考え、フラワータウン内での人口循環を誘起させる仕組みを構築し、若年・子育て層にとって暮らしやすいまちにしていくことだと考え、まずは、市長のトップセールスで、県とまちの将来像を共有し、実現に向けた協力体制を築き、官民連携のもと、住民や民間事業者の意向を聴き、まちの魅力を発信する。

(2) 公共交通の見直し

(答) グリンスローモビリティ(電動小型車)を活用した移動サービスを、センター地区周辺の移動手段の確保を優先に、手動での実証運行を継続している。まちの再生には、骨格となる地域公共交通網は不可欠要素である。公共交通事業者や企業との官民連携を一層強め、地域内の小さな移動から、鉄道やバスの基幹交通までが円滑につながるしくみで、誰もが移動しやすいまちとして再生する。

(3) 住み替え支援と子育て世帯の誘致

(答) フラワータウンは、良好な住環境で、中古住宅が市場に流通すれば、転入や住替等、購入希望者は多い。魅力あるまちであり、住替促進を支援することで、子育て世代の転入が図られると考えている。

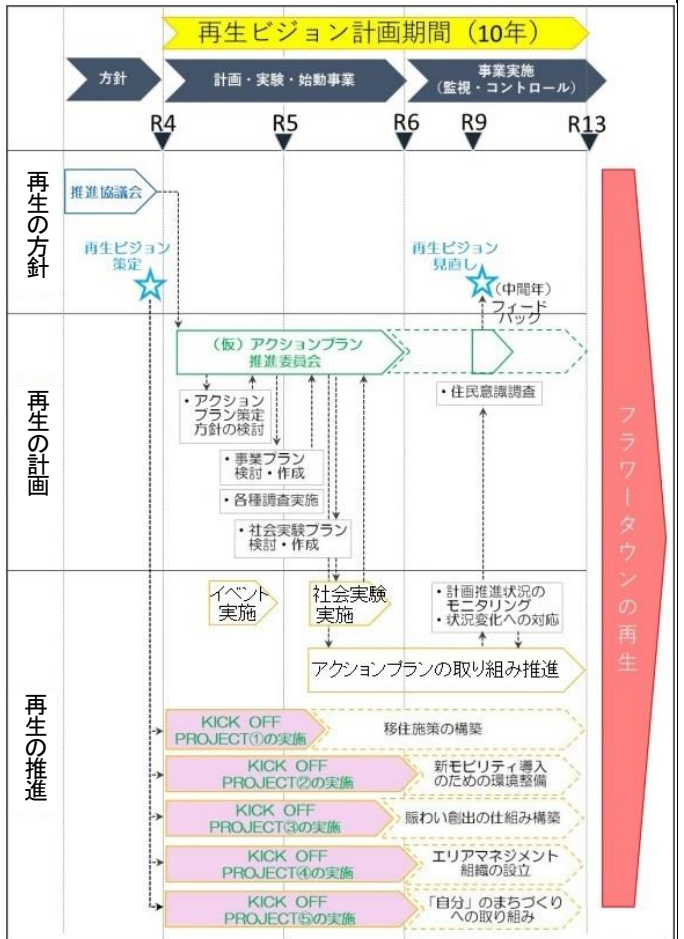
若年世帯等対象の住替支援補助や、空き家リフォーム補助を実施し、良質な住宅ストックを子育て世代への住宅循環を図るため、NPO法人「空き家相談センター」と連携し、セミナーや住まいの相談会で、市場流通促進を図る。

今後、シニア世帯が所有する住宅を子育て世帯へ売却する場合の支援など、シニア世帯が住み替えを検討しやすい環境を作ることも必要で、支援のあり方を研究する。

(4) 学校の再編統合

(答) 学校再編は子どものより良い学びの環境を第一に考えた取り組みを進めてきたが、フラワータウン再生の取り組みを進める現在の状況では、今後とも、フラワータウン全体のまちづくりや教育委員会と十分に調整、連携しながら取り組むことが重要であると考えている。

以上、様々な取り組みを展開し、課題解決に向けスピード感を持って、持続可能なまちを形成し、他のニュータウンにも適用できるモデル事業化を図っていく。



びとう:2. 公共施設マネジメントの見直しについて

(問)市長は小柿の野外活動センターの指定管理によるグランピングなどの再生計画を白紙にし、従来の施設のまま使用する旨、9月議会で提示し、12月議会で2年9カ月の指定管理の計画を提案された。その後は仕様を見直し、再度指定管理の公募をする予定とのこと。公共施設マネジメント推進計画の全体見直しが必要ではないか。

(1) 田村市長就任後の方針変更

(答)人口減少や少子高齢化、厳しい財政状況を踏まえ、次世代に適正な公共施設継承を目的に、公共施設マネジメントを推進中で、必要性・重要性は強く認識している。

今年度は、10年間の具体的な方向性「公共施設マネジメント推進に向けた基本方針」の5年目で、中間検証と後期5年間の各施設の方向性を再設定する時期を迎えている。

公共施設マネジメントには、長期的な視野と、多様な手法が肝要である。今回の中間見直しで、市の身の丈にあった全体最適を目指す目的や方向性は変えない。

各施設やサービスの今後のあり方を具現化過程で、社会経済環境の変化を踏まえつつ、多様な市民意見を公平に受け止め、施設価値を改めて評価し、時代に応じたコンセプトや運営手法へと見直しを図られるべきと考えている。

(2) 人口減少や構成の変化に対応した見直し

(3) シティセールスの観点からの見直し

(答)「子どもを核としたまちづくり」は、子どもが生きいきと育つまちにするために、体験機会の提供と、施設の価値や魅力向上に取り組む方策など、検討を指示している。

これまで地場産レストランの推進を目指した「淡路風車(かぜ)の丘」や「青野ダム記念館」などの民間利活用を、好事例と考え、「公民連携」(民間事業者等との共創により施設が持つ価値を高め、市の施策や魅力を発信するシティセールスにも繋がる取り組み)をさらに発展させ、積極的に進めていく。

この取り組みが、より市民に理解され、成果を上げるためには、市民や優れたアイデアやノウハウを有する民間事業者の間で、本市の状況や目指すまちづくりを共有し、取り組みを共に進める姿勢であると強く認識している。

今回の基本方針見直しは、以上を念頭に、①財政持続性を高める施設全体の最適化、②子どもを核としたまちづくりの方向性、③公民連携の活用、の視点で検討し、反映を図る。

なお、基本方針の見直し案は、市議会にご意見をうかがうとともに、市民に広く理解される形での改定に努める。

びとう:3. 北神・三田地域の急性期医療の構築について

(1) 三田市民病院と済生会兵庫県病院との再編統合の課題 (びとうは5つ提示)

(答) ①新統合病院の整備候補地 :

新統合病院の整備候補地が神戸市であることは、多くの意見を聴いている。三田・北神地域の急性期医療の確保に関する基本構想に掲げた方針に基づき、神戸市北区等や済生会兵庫県病院の利用者も考慮し、両病院の中間地点付近が最適と考え、市民に丁寧に説明し、理解を得る努力を重ねる。

②市民病院の位置付けと新病院の名称 :

新統合病院は市民病院で、名称は、愛着のある名称が望ましいが、関係機関等と協議調整し、適切な時期に判断する。

③交通アクセス :

新統合病院までシャトルバスやデマンド型交通、路線バスなど、地域特性に応じた交通手段の組合せや、最寄り駅となる神鉄横山駅から約1Km徒歩15分程度を通勤やお見舞い等で徒歩も想定し、負担が少ないアクセス等、今後事業を進める中で検討する。

④医療圏域による県の支援など :

県には、阪神北と神戸の二圏域をまたぐ再編統合に伴い、国の財政支援等の活用に向けた助言や、地域医療構想の病床数整理など、諸課題に必要な助言等を得ている。今後も、県と連携しながら取り組みを進める。

⑤新病院のセールスポイント :

新統合病院の基本計画策定の中で、医療機能や設備の検討を図りながら、特徴のある診療科や医療機器及び設備を備えた魅力ある新統合病院の整備を進め、市民理解を得られるよう取り組んでいく。

(2) 4か月凍結の影響と医師等の働き方改革の対応

(答) 約4か月間、再編統合に関する全ての取組が凍結し、市民病院の職員も不安になり、医師有志が市民病院の窮状と再編統合を、市長に訴えたことは報道された通りである。現時点では、医師は通常の異動以外退職者はなく、人数は減少しないが、来年4月からの医師の働き方改革の開始に伴い、医師確保は今後より困難になる。

11月24日の再編統合再開表明を受け、取組を確実に進めることが将来の医師確保につながるものと考えている。

また、看護師など医療従事者にも令和5年度は応募者が減少したが、全国的な看護師不足に加え、当院の不安定な状況が応募を敬遠する一因の可能性もあると認識している。

このため、職員には、再開した再編統合計画の説明を丁寧に言い、不安払拭と離職防止に努めると共に、来年度以降の採用活動は、急性期医療の維持・充実に向けての重点課題として、医療人材の確保に取り組んでいく。

(3) 現市民病院と済生会病院跡地の活用

(答) 現市民病院の跡地活用は、市内に不足している回復期医療の民間病院誘致や、休日応急診療センターの移設、在宅医療・介護の充実、子育て世代に対する支援施設などの活用を図ることで、高齢者から子どもまでのあらゆる世代にとって、新たな地域の拠点となるよう取り組む。

一方、済生会兵庫県病院の跡地利用は、法人が主体的に考えることだが、三田市は、新統合病院の整備に合わせ、両病院の跡地の活用が三田・北神地域にとって、よりよい活用が図られるよう連携・協力して取り組む。

<自宅>三田市西山 2-11-13

Tel : 079-562-8653、

Fax : 079-562-0730

<mail>bit@venus.dti.ne.jp

<ホームページ>

http://www.bitokazuhiro.com



三田市議会議員

びとう 和広

